

# 復活節第5主日

永眠者記念礼拝

**朝第1礼拝** 9:00~10:00  
**朝第2礼拝** 10:30~11:45

〈神の招き〉  
 前 奏 ②いざわが魂よ、主をほめまつれ  
 ブクテスフーデ

招きの詞 詩編68:20~21  
 交読詩編 95:1~11  
 讃美歌 493

〈神の言葉〉  
 聖 書 詩編23:1~6  
 (旧約 新共同訳 854頁)  
 ヨハネの黙示録21:1~7  
 (新約 新共同訳 477頁)

祈 禱 (新約 新共同訳 477頁)  
 讃美歌 385  
 説教 「新しい天と新しい地」  
 熊江秀一牧師

祈 禱 熊江秀一牧師  
 黙 想  
 讃美歌 579

〈神への応答〉  
 使徒信条  
 献 金  
 主の祈り  
 遺族紹介 ②  
 宣教報告 ②  
 頌 栄 27  
 派遣と祝福  
 後 奏 ②我らに救いは来たりぬ  
 バッハ  
 宣教報告 ①

**夕 礼 拝** 18:00~19:00

〈神の招き〉  
 前 奏  
 招きの詞 詩編68:20~21  
 交読詩編 95:1~11  
 讃美歌 214

〈神の言葉〉  
 聖 書 出エジプト記19:1~6  
 (旧約 新共同訳 124頁)  
 ヨハネによる福音書15:1~11  
 (新約 新共同訳 198頁)

祈 禱  
 讃美歌 68  
 説教 「愛にとどまる」  
 甲賀正彦伝道師

祈 禱 甲賀正彦伝道師  
 黙 想  
 讃美歌 217

〈神への応答〉  
 使徒信条  
 献 金  
 主の祈り  
 宣教報告  
 頌 栄 27  
 黙 禱  
 派遣と祝福  
 後 奏

**今週の御言葉**  
 (ヨハネの黙示録21:3b-4)  
 「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもものは過ぎ去ったからである。」

**永眠者記念墓前礼拝** 14:00~14:30  
 於青葉園・大宮教会墓地  
 説教「天の故郷への旅」 熊江秀一牧師  
 ヘブライ人への手紙 11:13~16  
 讃美歌 484、575、27

## 次週の礼拝 (5月22日)

①9:00、②10:30 説教「悲しみは喜びに変わる」 甲賀正彦伝道師 創世記18:23~33 ヨハネによる福音書16:12~24 交読詩編15:1~5 讃美歌140、90、476、27	ワーシップ(賛美礼拝) 14:00 説教「感謝のサマリア人」 熊江秀一牧師 ルカによる福音書 17:11~19	夕 18:00 説教「感謝に生きる」 熊江秀一牧師 詩編107:1~3、 ルカによる福音書17:11~19 交読詩編15:1~5 讃美歌11、56、490、27
---	--	--

\*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。\*は祈禱当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。

**■今週の祈禱課題■** 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為      2. 東日本大震災等の被災者の為  
 3. 天にある兄弟姉妹を偲んで      4. 伝道の前進の為      5. ウクライナと世界の平和の為  
 6. 新型コロナウイルス感染終息の為      7. 病気の兄姉の為

**\*関東教区お祈りカレンダー** 佐渡教会 村上教会 中条教会

◇先週の説教より 「一人の主に招かれて」エフェソの信徒への手紙4:1~6、申命記6:4~6 熊江秀一牧師

様々な教会を訪ねて思うことは、教会が一つであることである。教会は違いや異なる考えを越えてキリストにおいて一つの群れであり、一つの体を形作っている。

パウロは「主の招き」を確信し、それに応えて「ふさわしく歩む」ことを勧める。「一切高ぶることなく」(謙遜に)、「柔和で」、「寛容の心を持ち」「愛を持って忍耐し」「平和のきずなに結ばれて」。これらは人間の努力によって作り出すものではない。キリストが十字架によって実現し、聖霊の実として与えられているものである。

だからパウロは言う。「霊による一致を保つように務めなさい」。一致はキリストの十字架によって実現し、聖霊によって与えられている。私たちに求められていることは、その一致を保ち、具体的に実を結ぶことである。

この教会の一致の根拠を、パウロは一つなる恵みの宣言として語る。

「体は一つ」「霊は一つ」「希望は一つ」「主は一人」「信

仰は一つ」「洗礼は一つ」「神は唯一」。違いがあっても、教会は一つの霊に導かれる一つの体として同じ希望に向かう。教会は時代が変わっても、唯一の神に招かれ、一人のキリストに贖われ、一つの霊に導かれ、同じ希望に向かう群れである。

「主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ」は、古来より洗礼式の時に用いられてきた。私たちは一人の主のもとで、一つの信仰を告白し、一つの洗礼を受け、一つの教会に連なる。

この一致の恵みの中、最後にパウロは神への賛美を歌う。キリストにおいて救いを実現した唯一の神が、すべてのものの上であり、すべてのものを通して働き、すべてのもののおられる。この大きな神の恵みの中で、神の招きに応え、一つなる教会で、一つの希望に向かって共に歩もう。